

金賞 浦本 義幸君

北海道工業大学空間創造部建築学科

秩序のざわめき

若い建築家の作品に多いのだが、偶発的で形態的で理屈過多の建築に、私だけでなく多くの人が閉口している。というのもこれらの特徴を除いたら何も残らないからだ。雑誌に取り上げられ有頂天になっている建築家よ、もっと時間に耐える建築を作ろう！と思っていたら、「秩序のざわめき」を審査。なんだ、何とか風と思いきや、巨匠？達とは違うぞ。何かとっても幸福感を感じる。この類（失礼）はきらいなはずなのにどんどん引き込まれる。建物同士の関係も新たな「個」の有り方を考えさせられるし、微妙な変化は決して偶発的ではない。計算されているのに作為を感じない。2方向避難まで考えられている。ただただ美しいだけではないのだ。私の中に長く記憶に残る作品となるだろう。

（文章 中山真琴）